

アグリビジネスの魅力は

アルヴェで
支援セミナー 担い手が討論、物販も

農業の振興とビジネスを考えるセミナーが、秋田市のアルヴェ一階きらめき広場で開かれた。パネルディスカッションや農産物の販売を通じ、収益につなげるポイントを探った。

ディスカッションは「アグリビジネスの魅力とは？ 未来の食と仕事の話」がテーマ。男鹿市でナシを栽培する「めぐみ農園」の高橋一成さん、

真由さん夫婦、県立大生物資源科学部4年の三村保翔さんが登壇した。

農業の可能性について、一成さんは「時代に合わせてやり方や経営方法を変えていくといい。自分がやるんだという気概が大切」、真由さんは「栽培する作物や品種、農産物の加工など、自分でやりたいことを決めて実現できることが農業の魅力」と話した。

三村さんは、授業やサークル活動で農家と関わる機会があったといい、「農業に対する考え方が変わり、生産者と消費者の両方の気持ちを考えられるようになった。農家と消費者をつなぐ立場で活動したい」と展望を語った。

セミナーでは、金足農業高校と大曲農業高校の生徒や、秋田市内の農家など5事業者が農産物や加工品を販売。コメや野菜、卵のほか、みそやジャムなどの加工品が並び、来場者は商品の説明を聞きながらじっくりと品定めしていた。

金足農3年の白山愛来さん

は「授業で農作物を育てること、農業に関わる仕事をしたいのとは学んだが、販売は初めてだったので、作って良かったになりたい」と話した。

セミナーは市が5日に開いた。農業に関心のある市民や県民を対象に、2016年度から実施している。

(佐藤千華)



アグリビジネスの魅力について
語ったパネルディスカッション



農産物や加工品の販売も行われた